

おれたちのゆうき～有機農業の普及と食品ロスの削減を目指して～

山形県立米沢栄養大学 おれたちのゆうき

秋保由茉 太田初 熊谷悠那 小林乃々果 佐藤武司 佐藤光希 須藤智香 比田井いずみ 森陽香 山田陽葵 我妻美咲

1. みどり戦略との関連性

みどりの食料システム戦略において、持続的生産体制を構築するため、化学農薬を使用せず、環境に配慮した有機農業の推進が求められている。また、一般消費者は環境にやさしい持続的な消費の拡大のため、食品ロスの削減に取り組む必要がある。そこで、多くの人に有機農業・有機野菜を身近に感じてもらい、見た目が悪くても味には変わらない・身近な野菜に興味をもってもらうことで、食品ロスの削減につながる食品選択をしてもらうことを目標に活動している。

2. 背景・目的

私たちにとって、活動前までは有機農業・有機野菜は身近なものではなく、言葉では知っていても詳しくは知らなかった。また、大学の実習畑ではさまざまな形の野菜を収穫したが、お店では形の良いものしか売られていないことに違和感があった。そこで、有機農業になじみがない若い世代をターゲットとし、SNS(Instagram)を活用することで、有機農業と食品ロスに興味・関心を持ってもらうことを目的とした。

3. 取り組み内容

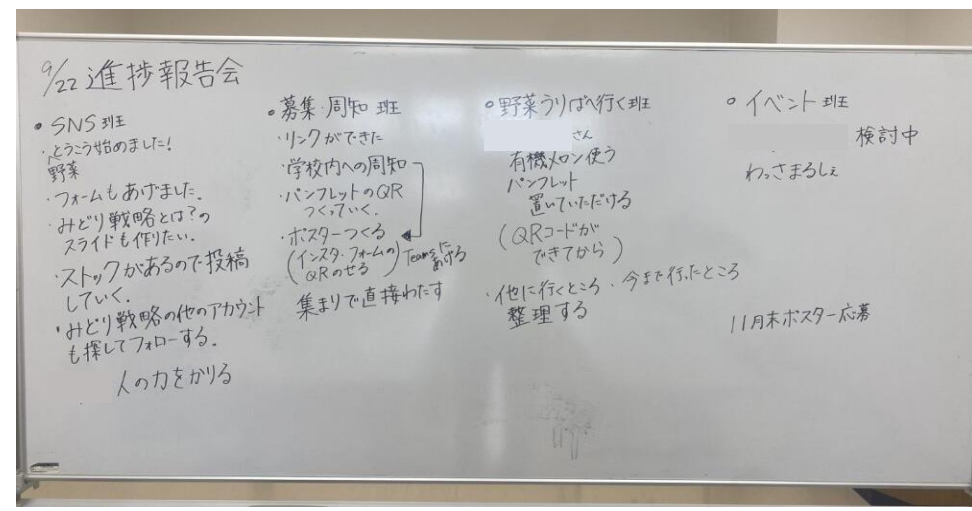
①【おれたちのゆうき会議】

「ゆうき」を「有機」と「勇氣」にかけて、「おれたちの」として「自分ごととしてみどりの食料システム戦略を実現していく」ことを目標に、月1回程度メンバーで集まり、各班の進捗状況を報告している。

①SNS班、②野菜の写真募集班、③有機野菜の提供店を探す班の3つの班で活動している。



おれたちのゆうき会議の様子



②【Instagramでの変なかたちのやさしい写真展】

「食品ロスの削減」と「有機野菜の消費推進」を目指し、規格外の野菜でもおいしく食べられることをInstagramで発信している。

投稿写真は学内だけでなく、一般の方々からも募集をしている。「変なかたちのやさしい」の写真、そのやさしいにつけたおもしろい名前、おいしく食べた料理の写真を併せてGoogleフォームで募集し、投稿している。投稿を募集するため、周知用チラシを作成した。



しずくいも



つまめるかぼちゃ



募集用フォーム



Instagram



美脚大根



Instagramに投稿した野菜・料理



周知用チラシ

③【有機野菜の提供店の探索・パンフレット設置】

学生自ら店に足を運び、有機野菜を使用している飲食店等を探した。有機野菜を使用しているお店にご協力をいただき、R6年度作成した有機農業パンフレットと「変なかたちのやさしい写真展」の周知用チラシを置いてもらった。



R6年度作成 有機農業パンフレット

④【イベント展示】

大学を会場に開催された、地域の方が来場するイベント(わっさまるしえ)の中で、「変なかたちのやさしい写真展」の展示を行った。来場者に周知用チラシ、有機農業のパンフレットを配布した。



イベント展示の様子

4. 結果

【変なかたちのやさしい写真展】

①Instagram

- Instagramの投稿数 30投稿 (R7年11月25日時点)
- フォロワー数 213人 (R7年11月25日時点)
- Instagramの総閲覧数 21,656 (R7年11月25日時点)
- Instagramの総いいね数 348 (R7年11月25日時点)
- この取り組みを知り「変なかたちのやさしいを見つけたよ!」と周りの人が教えてくれた。

②イベント展示

- わっさまるしえ来場者数 約1,200～1,500人
- 有機農業パンフレット配布数 28部
- 小さい子どもたちが写真に駆け寄り、指を差しながら楽しく見ていて、興味を持ってもらえた。
- 子どもから大人まで幅広い年齢層の方に有機野菜と食品ロスについて周知することができた。
- 好評であったことから、引き続き学内で展示している。

【有機野菜の提供店の探索・パンフレット設置】

- 店舗訪問 6件
 - うち 有機野菜使用店舗 4件
 - 有機野菜使用店舗に有機農業パンフレット設置 2件 (計30部)

5. 考察・まとめ

規格外の野菜の写真展によって、規格外の野菜でもおいしく食べることができる点は普及できたが、実際に販売まで繋げることはできなかった。これからもInstagramでの投稿を続け、周知を図っていく。R6年度作成した有機農業パンフレットを用いて、有機農業の認知度を上げることに貢献した。今後も有機野菜を使用している店舗を探し、引き続き普及に取り組んでいく。



イベント展示の様子